

令和4年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率

大治町

1. 健全化判断比率

(単位：%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	—	—	2.3	9.8
早期健全化基準	14.30	19.30	25	350
財政再生基準	20	30	35	

備考

- 1 実質収支額は黒字（330,465千円）で、計算結果では、△5.22%となった。
 連結実質収支額は黒字（814,812千円）で、計算結果では、△12.88%となった。
 なお、実質赤字比率、連結実質赤字比率は赤字の比率を示す指標であり、黒字の場合は「—」表示となる。
- 2 将来負担額には、地方債残高の他、一部事務組合が起こした地方債の返済に係る負担金などが含まれ、計算結果では、9.8%となった。
 なお、マイナスの場合、充当可能財源が将来負担額を上回っているということになり、将来負担比率は「—」表示となる。

2. 資金不足比率

(単位：%)

特別会計の名称	資金不足比率	備考
大治町下水道事業会計	— (20)	

備考

- 1 資金不足額がないため、「—」表示となる。
- 2 経営健全化基準を括弧内に記載。